

# リトアニア政治・経済月間情勢(2月)

## 概況

- 連立与党内の動きとして、ポーランド人選挙活動党が連立脱退を仄めかし(後日撤回)、労働党と正義と秩序党はそれぞれの思惑があり、合併を決定。労働党の不正経理裁判への影響も注目される。
- ポーランドやロシアとの関係改善に向けた首相や外相会合が相次いで実施。ポーランドとの間では、エネルギー、運輸関連共同プロジェクトの推進で意見が一致。リンケビチュウス外相が2010年にリトアニア国会が外国語表記を認めなかったことに謝罪したことは、リトアニア国内で波紋を呼んだ。
- 地場系のUkio銀行が破綻し、他行に資産移転される結末となる。中央銀行は預金も保証され、大きな混乱はないと強調。
- 政府が進めるシェールガス採掘に関して、国会や住民の反対の動きが強まる。ロシアへのガス依存を低下させるものとして期待がある一方で、環境面での影響を懸念する声も強い。

## 内政

【4日】政府は法務省、運輸通信省、教育科学省、財務省の副大臣を現在の3人から4人へ増員することを決定。

【8日】ブトケビチュウス首相は、3月中に少数民族言語による地名標記に関する提案を提出すると発言。

【11日】トマシェフスキ・ポーランド人選挙活動党党首は、同党の主張が認められなければ、連立政権離脱も辞さないと言明。12日、ブトケビチュウス首相は、この発言には驚いたが、同党の宣伝目的と言明し、18日には同党との関係は良好と言明。19日、トマシェフスキ党首は連立残留を約束。

【18日】労働党と秩序と正義党の合併が検討されていると報道。19日、グリボウスカイト大統領は、政党の合併は連立政権の問題としてコメントを回避。24日、両党のそれぞれの理事会で4月合併が承認された。27日、検察はビリニウス裁判所に対し、労働党の活動の一時停止及び合併による法的主体の変更を禁止するよう要請。

【20日】パバルキス教育科学大臣は少数民族学生へのリトアニア語統一試験内容を簡易化する省令に署名。トマシェフスキ・ポーランド人選挙活動党党首はこれを歓迎する一方、専門家は国語能力の格差を助長すると批判。

【23日】政党支持率調査で、社会民主党は他党を大きく引き離し、労働党の支持率は下り、グリボウスカイト大統領の支持率は回復が続く。

## 外交

【1日】ラスムセンNATO事務総長が来訪しグリボウスカイト大統領、リンケビチュウス外相及びオレカス国防相と各々会談。緊急事態の対応及び軍事演習の重要性が強調。

【1～2日】グリボウスカイト大統領、リンケビチュウス外相及びオレカス国防相はミュンヘン安全保障会議へ出席し、大統領はEUの将来及び経済の課題に関するパネル討論で、政治、経済的に統合した欧州の必要性を強調。

【2日】リンケビチュウス外相はラブロフ露外相とミュンヘンで会談し、建設的な協力を促進することで一致し、建設的な会談と評価。

【5日】ウシャツカス駐アフガニスタンEU大使(元外相)が次期駐露EU大使に9月より就任と発表され、同大使は次期大統領選挙への立候補を否定。

【6日】グリボウスカイト大統領は当地訪問中のヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領と会談し、ウクライナがEUとの連合協定かロシアとの関税同盟かのどちらかを選択する必要があり、選挙や司法制度改革、人権状況の改善が必要と強調。

【6～7日】リンケビチュウス外相はポーランドを訪問し、シコルスキ外相との会談で、両国関係を刷新することで一致。ポーランド紙とのインタビューでは、2010年にリトアニア国会が外国語での氏名表記を認める法案を否決したことに謝罪。この謝罪は、リトアニア国内で、大統領、首相をはじめとして批判を呼ぶ。

【8日】プトケビチュウス首相は当地公式訪問中のレアンカ・モルドバ副首相兼外務欧州統合相と会談し、モルドバのEU統合支援を表明。

【11日】グリボウスカイト大統領は、ローマ法王ベネディクト16世の退位に際し、法王の対話、和解に向けた努力を評価する声明を発売。

【12日】外務省は、北朝鮮の核実験を非難する声明を発売。22日、信任状捧呈のため当地を訪問したパク北朝鮮大使(スウェーデン兼轄)に対し、グリボウスカイト大統領及びゲルマナス外務副大臣はこの核実験を直接批判。

【12日】プトケビチュウス首相はポーランドを訪問し、トウスク首相と会談。エネルギーや運輸関連共同プロジェクトの推進、EU議長国準備等を協議。

【12日】ゲドビラス国会議長は、エストニアを公式訪問。

【16日】リトアニア独立記念日式典が行われ、コモロフスキ・ポーランド大統領等が出席。式典後、両国大統領は会談し、EU多年度財政フレームワーク等のEUの課題を協議。カウナスでは愛国主義者の行進が行われたが、大きな問題は発生せず。

【18日】リンケビチュウス外相はEU外相理事会に出席し、最も積極的な東方パートナーシップ諸国にはEUへの統合を慫慂すべきと強調。19日にはスカルプヘイジンソン・アイスランド外務貿易相と会談し、同国のEU加盟への支持を表明。

【19日】国防省は、フィンランドからの要請に応え、マリでのEU訓練ミッション北欧教官チームに当国から2名の教官を派遣すると発表。

【20日】当地訪問中のバーコウ英国下院議長はグリボウスカイト大統領他と会談し、ビリニウス大学国際関係・政治学研究所で英国下院議長の役割に関する講演を実施。

【20日】リンケビチュウス外相はポーランドでの北欧バルト諸国(NB8)+ヴィシエグラード・グループ(V4)外相会合に出席し、北欧、バルト、中欧の地域協力の重要性を強調。

【21日】当地訪問中のテルツィ伊外相はリンケビチュウス外相と会談し、戦間期の駐伊リトアニア大使館への補償に関する合意に署名。

【26日】グリボウスカイト大統領は、当地訪問中のファン・ロンパイ欧州理事会議長と会談し、財政規律強化、経済成長促進及び開かれた欧州の実現をリトアニアのEU議長国3指針とすると発言。

【27日】リンケビチュウス外相はローマで開催された「環大西洋夕食会」へ出席。ケリー米国务長官とバルト3国外相との会談では、地域の安全保障、EU東方隣国の情勢、エネルギー安全保障、米EU・FTAについて協議された。

## 経 済

【8日】グリボウスカイト大統領は欧州理事会へ出席。2014～20年の多年度財政フレームワークの合意につき、全体予算が大きく減少した中で、リトアニアは現在の多年度枠組みより10%増を勝ち取ることが出来たと評価。

【8日】統計局は、2012年の輸出は796.5億リタス(前年同期比14.5%増)、輸入は865.7億リタス(9.9%増)と発表。

【11日】当国訪問中のIMFミッションは、リトアニア経済は、回復を続け、脆弱性が削減されたが、中期的な財政調整の継続、銀行システムの強靱性強化、成長と雇用を生む競争力強化が重要と指摘。

【12日】中央銀行はUkio銀行に対し不適切な経営状態にあるとして、営業制限命令を発売。18日、同行を破綻と認め、営業許可を取消し、他行への資産等の移転を決定。23日、同行資産のシャウレー銀行への移転契約が締結された。中央銀行総裁は、最短で銀行システムを復帰させた、預金の多くは保護され、大きな混乱はないと強調。

【13日】リンケビチュウス外相は米EU・FTA交渉開始決定を歓迎し、当国EU議長国時の優先事項となるとコメント。

【14日】リトアニア経済会議が開催され、ブトケビチュウス首相は経済分野での政府の優先事項は、経済成長、エネルギー安全保障、財政安定化と発言。

【15日】統計局は2012年の失業率を13.2%（11年15.3%）、若年失業率は26.4%（同32.2%）と低下傾向にあると発表。

【25日】ブトケビチュウス首相は新任の米国大使と会談し、リトアニアのOECD加盟申請への支持を要請。

【26日】観光局は2012年の当国への渡航者が約200万人に達し、ロシア、ドイツ、ポーランド、ベラルーシ、ラトビアが上位を占めたと発表。

【27日】政府は2015年のユーロ導入準備計画を承認し、グリボウスカйте大統領はこの決定を歓迎。

## エネルギー（含むビサギナス原発プロジェクト）

【4日】グリボウスカйте大統領は、当地でシェールガス採掘に入札しているシェブロン社代表と会談し、シェールガスがロシアのガスの有力な代替となりうると採掘に賛成する姿勢を示した。6日、国会前で採掘反対活動が行われ、環境委員会は採掘計画を中止するよう提案。ブトケビチュウス首相はこの採掘に関する政府作業部会を設置。

【6日】リンケビチュウス外相は、ビサギナス原発に関する日立との協議を放棄したわけではなく、日立との協議は成果を生むと発言。

【8日】エストニアを訪問中のネベロビッチ・エネルギー大臣は、パルツ経済通信大臣と会談し、ビサギナス原発計画をはじめとするエネルギー・プロジェクトは地域協力が重要と強調。

【11日】ネベロビッチ・エネルギー大臣はポーランドを訪問し、ピエホテンスキ副首相兼経済大臣と会談。エネルギー分野でのリトアニアの優先事項について説明し、両国共同プロジェクトの進展を歓迎。

【12日】ザレンバ・エネルギー副大臣が辞任。前職との関係で公職就任禁止期間に当たると指摘されていた。

【13日】ゲドビラス国会議長はメルテン・ロスアトム海外部門副社長と秘密裏に会談していたことが発覚。

【22日】ブトケビチュウス首相はイグナリナ原発廃炉状況を視察し、Nukem社との問題を3月末までに解決する必要性を強調。ロスアトム社は同首相へキリエンコ同社社長との会談を要請したが、同首相は拒否。カリニングラード及びベラルーシの原発建設への参加も否定した。

【25日】当地報道とのインタビューで、イルヴェス・エストニア大統領は7年前にバルト3国で合意したビサギナス原発計画に進捗が見られないと発言。

【26日】ビサギナス原発会社の主管省庁が経済省より財務省に正式に移管された。

【28日】ブトケビチュウス首相は、リガで開催された北欧バルト協力(NB8)+英国の首相会合へ出席し、再生可能エネルギー促進プログラムを導入すると表明。

## 日本との関係

【1日】白石大使は当地の企業オーナー・幹部等20名に対し、日本文化に関する講演を実施。15日にも当館館員による同様の講演を行った。

【1～7日】ビリニユスにおいて、日本映画祭が実施された。

【16日】グリボウスカйте大統領は、当国独立記念日への天皇陛下の祝辞を受領したと報じられる。

【21～24日】第14回ビリニユス国際図書展が開催。当館から日本の出版文化の紹介を実施した。

【23日】国防省は、アフガニスタンのゴール県4地域の権限委譲式典が開催され、高橋駐アフガニスタン日本大使も出席した旨のプレスリリースを発出。

【26日】統計局は2012年の渡航者統計(宿泊施設利用者統計に基づく)を発表し、日本人の渡航者は9,465人で、2000年以降最高となった。

【28日】山田外務省欧州局審議官が出席し、当地で日リトアニア政務協議が開催され、2国間関係、グローバル課題での協力、地域情勢等で意見交換を行った。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。